

国際医療救援におけるメディカル・ロジスティックス業務と薬剤師—ハイチ大地震救援／コレラ対応における経験から—

○小林 映子¹, 佐川 剛毅², 大塚 万記子⁴, 榎島 敏治³, 小高 雅信²(¹日本赤十字社医療センター薬剤部／国際医療救援部,²日本赤十字社医療センター薬,³日本赤十字社医療センター国際医療救援部,⁴広島赤十字・原爆病院)

【概要】国際赤十字・赤新月社連盟（連盟）の国際医療救援活動において、薬剤師には、メディカル・ロジスティシャンとして、医薬品のみならず医療物資全般の調達・供給、在庫管理、他組織との連携、医薬品情報提供、現地薬剤師や倉庫管理スタッフの指導や管理などの役割が求められている。2010年1月のハイチ大地震以降の連盟での活動経験と、それに続く10月中旬以降のコレラ蔓延への対応として、連盟のヘルス部門とロジスティック部門における医療物資支援活動を行った。

【目的】連盟のコレラ対応におけるメディカル・ロジスティックス業務の遂行

【活動内容】連盟のメディカル・ロジスティシャンとして、連盟ヘルス部門に殺到する赤十字内外からのコレラ対応物資の依頼をまとめ、連盟のロジスティックスシステムにのせて物資提供を行っていく役割を担当した。各部門の活動状況を把握し、ロジスティック部門との連携による在庫調整を行い、適正供給のために各部門間での調整を行った。

【結果・考察】医薬品や滅菌医療資材の追加調達は、品質安全性の問題から現地調達を禁止しているため、調達にかかる時間と輸送費を考慮し、活動状況の変化や疾患の動向などに応じた適切な見積りを立てることが重要である。今後、連盟のロジスティックスシステムを導入するなどの管理体制の強化と情報共有化において、薬剤師の知識と管理能力の発揮が求められる。日常業務での知識と在庫管理能力、緊急用医薬品選定や備蓄管理を行ってきた経験が、緊急現場での柔軟な対応につながったといえる。適切な情報提供のための情報処理能力と交渉能力に加え、熱帯医学や国際標準の理解など国際医療活動における専門知識を強化することで、薬剤師の職能を発揮できる分野であり、今後の人材育成が期待される。